ウクライナのアントノフ航空機会社が中国 Y-20 型輸送機に不快感を示す

漢和防務評論 20130423

KDR Y.SIDOV キエフ特電：

アントノフ社の高級官員は、**KDR** に対し、**Y-20** の初飛行の写真を見たこと、同機はアントノフ社が中国に無償で提供した設計草案の機体にそっくりであることを認めた。同社の官員は、「ご存じのように、我々は **Y-20** の設計、製造に直接は介入していない。しかし中国人は、当初我々に対し大型輸送機の共同設計、製造について意見を求めてきており、このとき我々は、**IL-76** 及び **AN-70** 型機の技術を総合し 2 つの改良意見案（設計草案）を中国に提供した。**Y-20** が出現したとき我々は明らかに **IL-76** の改良意見案の機体であることに気付いた」と述べた。

また「**Y-8** シリーズ輸送機の改修作業を含め、中国側への設計意見提供に対して、我々は如何なる報酬も要求したことはない。かつて **Y-8** を改修した中国の **KJ-200** 型早期警戒管制機を見た際にも、彼らが我々の”設計意見案”を **KJ-200** の改修に利用したことが判明した」と述べた。

なぜ中国側に設計諮問代金を要求しないのか？との **KDR** の問いに対し、アントノフ社の官員は「なぜならば、我々は大型軍用輸送機を共同開発する際に、中国が約束を遵守すると思っていたからだ。率直に述べると、代金の請求について、アントノフ社の対外協力方式は旧ソ連時代に形成されたものであり、我々にはそのような制度はない」と述べた。

KJ-200 型早期警戒管制機の機体改修について、實際上中国がウクライナの専門家の技術支援を得ていたことを **KDR** は初めて知った。

KJ-200 の最初の重大事故の後、いわゆる”機体の安定性”について、中国がアントノフ社に対して機体の再設計について意見を求めた可能性は極めて高い。特に垂直尾翼の安定性についてである。

「我々は、**Y-9** は實際上 **Y-8** の改良型であると思っている。**Y-8** 及び **Y-9** の設計過程で中国人は我々に面会を求め、我々は中国人が技術的問題を抱えていることを知った。民間機についても、**ARJ-21** の胴体は我々が設計支援した」とウクライナのアントノフ社の官員は述べた。

以上